

令和6年度学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月25日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
教育課程 学習指導	①自ら課題を設定し、その解決に向けて主体的に探究することができる生徒の育成を図る。	①新教育課程を必要な整備、措置を講じて展開するとともに、ICTの利活用により生徒の多様な学びを支援する。	①新教育課程について教科から意見を聴取し、改善の有無を検討する。一人一台端末の活用について相談体制を整備する。	①新教育課程について、教科の意見聴取、改善の検討は進められた。一人一台端末の活用について相談体制は整備できたか。	①新教育課程について各教科からの意見聴取、大学入試状況などを踏まえて今後検討する。校内のICT機器については履用認証手順のマニュアルを作成し、事故防止に努めた。	①新教育課程については各教科の意見、大学入試状況などを踏まえて今後検討する。校内のICT機器については履用認証手順のマニュアルを作成し、事故防止に努めた。	・具体的な方策は目標実現の具体的な内容を書き表すべきだ。 ・総合的探究の時間を作り、問題や課題の洗い出し、見直しを可能となる。 ・ICT活用や学びの実現は手段が目的にならぬようしっかりと目標持つ。	①新教育課程が全面展開され、問題や課題の洗い出し、見直しを行って、必要な修正、見直しを行った。当該グループで教科の意見聴取は高まる。 ②ICT活用や学びの実現は手段が目的にならぬようしっかりと目標持つ。	①新教育課程実施に係る評価を行って、必要な修正、見直しを行った。ICT機器の履用認証が着実に行われるようマニュアル等の整備に努める。
	②グローバル化が進む社会で広い視野を持つ協働して活躍できる人材の育成を目標と課題を解決できる生徒の育成を図る。	②国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成を目指し、主体的に課題を解決できる生徒の育成を図る。	②授業改善について、教科で達成すべき目標を設定し、改善はICTの利活用による教育活動の充実に向け、教科会を通じて活用の報告や研修を行い、共有を図る。	②授業改善について教科ごとに達成すべき目標を設定し、改善はICTの利活用による教育活動の充実に向けて教科会の場は活用されたか。	②生徒による授業評価の結果を受け、教科会を行って教科ごとに達成すべき目標を設定することができた。ICTの利活用についての情報共有の場として、教科会を活用することができた。	②取組の継続性があり、学年・教科世代の枠を超えて構成するグループ単位で授業改善に取り組み、そこで得られた成果や課題等を学校全体で共有する。	・国際交流の仕事で、困っている外国人を世話をしている。海外に目を向けることができた。 ・取組の方向性を示す必要がある。ICTの利活用促進における取り組み、考えるのも重要な要素。 ・子供たちの学びの様子を間近で見られる機会がほしい。	②授業改善に向けて教科単位で取り組む体制を固めることができた。学びを再確認し、授業改善の目標とする。ICTの利活用促進における取り組み、考えるのも重要な要素。 ③教科や総合的な探究の時間の指導にあたり実現させた。	②教科や総合的な探究の時間の指導にあたり実現させた。学びを再確認し、授業改善の目標とする。ICTの利活用促進における工夫を図る。
生徒指導 ・支援	①豊かな人間性や主体性、指導的役割が果たせる人格の育成を図る。	①生徒が自らの目標達成に向けて活動し、幅広いコミュニケーションを通じて活動が実現するよう、生徒会行事や委員会、部活動を支援する。	①生徒が同期や先輩、後輩幅広いコミュニケーションを通じて活動が実現するよう、生徒会行事や委員会、部活動を支援する。	①生徒は自らの目標を設定し、そのための活動を行っていた。生徒は積極的にコミュニケーションを通じて活動が実現するよう、生徒会行事や委員会、部活動を支援する。	①委員会や部活動などが生徒主体で運営され、そのために生徒は積極的にコミュニケーションを通じて伝えるよう支援する。特に組織が委員長や部長を中心とし、組織は委員長や部長を支援する。	①生徒の主体的活動が深まり、活動内容の質が高まるよう支援を工夫する。委員会や部活動などを率いる生徒を中心とした運営や学行事でリーダーシップを引き継ぎ、組織は委員長や部長を中心とし、組織は委員長や部長を支援する。	・生徒の主体的活動が深まり、活動内容の質が高まるよう支援を工夫する。委員会や部活動などを率いる生徒を中心とした運営や学行事でリーダーシップを引き継ぎ、組織は委員長や部長を中心とし、組織は委員長や部長を支援する。	①生徒会活動や委員会、部活動では生徒主体の運営が定着しつつある。生徒達は広いコミュニケーションを通じて伝統の継承と課題の改善に取り組んでいた。	①生徒による主体的活動を維持させつつ、活動内容の質をさらに高め、生徒達はリーダーシップを身につけ、社会生活での応用も図れるよう支援に努める。活動の情勢を積極的に捉える。
	②生徒一人ひとりの適切な理解に向けて、校内の支援体制を整備する。生徒が安心して学校生活を送れるよう支援する。	②適切な生徒理解に向けて、校内の支援体制を整備する。生徒が安心して学校生活を送れるよう支援する。	②SC、SSW、職員間で適切な連携が取れるよう、教育相談コーディネーターを中心とした情報共有が実現する。SSWとSSWと協力、関係機関との連携を図る。かながわ子どもサポートドックを有効活用する。	②必要な生徒情報をSC、SSW、職員間で適切に共有し、適切な支援が行われた。SSWとSSWとの協力で関係機関と連携することができた。かながわ子どもサポートドックの有効活用は図られたか。	②SCとSSWの勤務日程を月1回合わせることで適切な情報共有が行われた。サポートドックにて担当生徒について担当とコミュニケーションを取れるよう工夫を図った。	②SCとSSW、職員間の共有を密にする。SSWと生徒との関わりが増えるよう工夫を図る。サポートドックでSC・SSWが気になった生徒について担任とコミュニケーションを取れるよう工夫を図る。	・2年目に入つたサポートドックをSCやSSWとの情報共有を通じて活用できた。情報共有のさらなる工夫とSSWの活用拡大が課題である。	②SC、SSWと職員間での情報共有を徹底し、適切な支援が行えるよう協力体制を整える。SSWの活用拡大が課題である。	②SC、SSWと職員間での情報共有を徹底し、適切な支援が行えるよう協力体制を整える。SSWの活用拡大が課題である。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月25日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
進路指導 ・支援	①キャリア観の育成を通じて生徒自らが進路を開拓選択する力を培うとともに、第一希望の実現に向けた指導、支援を充実させる。	①3年間を見通した進路指導計画に則り、将来を見据えたキャリア観の育成と組織的な進路指導を進め。各種の手立てを実践することにより、生徒に自ら希望する進路を見出させ、その希望する進路を実現させる。	①卒業生の話を聞く会や面接講師用の各種講演などによりキャリア教育の充実を図る。計画的・組織的な進路指導を実践していく。ハイレベルな学習スキルを養い、応用力の育成、図などHゼミ活用による充実を図る。夏のスタディショップの充実を図る。	①年度末に各学年で行う進路指導の満足度や必要な力が身に付いたかを問診調査で、各回答が85%を超えたか。Hゼミの充実は図れたか。スタディショップは生徒にとって魅力的なものになっていたか。	①生徒は各種講演会への参加などを通じてキャリア観の育成を図ることができた。3年間を見直した進路指導計画に基づき各学年では計画的・組織的な進路指導を実践した。Hゼミや夏のスタディショップについて、生徒の現状や参加状況分析した。	①来年度のHゼミと夏のスタディショップについて、内容の整理や時期の変更、また国数英の週末課題講座の新設などで制度の見直しを図り、より充実したものにする。	・Hゼミとスタディショップについて、中学でも放課後の講習を設定するが参加者が少ない。魅力的なことをやつていかなければならぬ。	①キャリア観の育成に向けた取組や組織的な進路指導の成果が効果的な進学実績に現れた。Hゼミとスタディショップの現状分析から、生徒がなかなか手の回らない現状がつかめた。	①Hゼミとスタディショップについて、高齢者希望との実現支援を目指して、内容の整理や時期の変更等の制度変更を行う。キャリア観育成に係る取組についても時期を早めるなどの対応を行う。
地域等との協働	①PTAや同窓会、地域との連携事業を通じて、生徒の社会参画意識を向上させ、地域とともに異なる学校づくりを推進する。	①本校の教育活動が地域等にとっても安心で魅力的なものとなるよう、地域等の現状やニーズの把握に努め、地域等との連携事業を教育活動の一環として推進する。	①地域等との連携に向けてコロナ禍前後の変化を整理する。地域等とムーズなコミュニケーションがとれる環境づくりに努める。現状やニーズを把握し、地域等との連携事業を充実を図る。	①コロナ禍前後の変化を踏まえて連携の在り方は整理できる。地域等と定期的な意見交換は行えたか。地域等との連携事業を充実は図られたか。	①PTAとの連携では現状確認や意見収集を積み重ねて連携の在り方を整理してきた。地域等と定期的な意見交換は行えたか。地域等との連携事業を充実は図られたか。	①PTAや同窓会の行事参加は生徒を優先させ、開催場所の変更も検討する。125周年記念グッズ販売で両者の連携を図る。PTA予算は会員全体や学校全体への還元割合を増やす。校説作成では校説作成会と連携を図り、学校雑誌としての機能を充実させる。地域貢献活動は参加部活動へ要望があるたた地域の事業に積極的に参画した。地域貢献を通じて1学年の生徒全員が地域のための活動に取組んだ。	・中学生は、参加できる高校生によるイベントがあると刺激があり、高校を考えるきっかけとなる。今後もお頼りしたい。	①地域等との連携は教育活動に欠かせない要素であり、それぞれの思いや要望を踏まえた十分な調整が必要となる。文化祭参加や校説作成等ではPTA、同窓会と適切な連携が図られた。地域連携は部活動を含め積極的な参加が見られた。周年行事を控えて次年度も緊密な連携と生徒の取組の工夫が求められる。	①文化祭でのPTA、同窓会との連携については生徒優先の上でも共存、共栄が図れるよう場所、内容等について十分な調整を図る。地域連携については、参加学年の拡大を模索するとともに、地域の教育資源活用の観点からも今後の連携の在り方を模索する。
学校管理 学校運営	①大規模災害に備え、職員・生徒・地域が協力して行動できる体制を整える。 ②生徒と向き合う時間を確保するため、教員の働き方改革を推進する。	①学校防災マニュアルを改善し、職員・生徒・近隣住民が協力できるよう体制を整備する。防災教育を充実させる。 ②業務分担の偏りや長時間労働の是正に向けて職員が協力して取り組み、必要な対応を進める。	①学校防災マニュアルの改善は図られたか。大規模災害を想定した訓練を実施する。防災教育を通して、生徒が安全に行動できるようにする。 ②職員は協力して部活動指導、グループ業務の均分化に努める。管理職は勤務過多の職員へは適切な対応がとられたか。	①学校防災マニュアルの改善は図られ、災害に遭遇した時に適切に行動できるよう様々な経験の場を用意して訓練や研修の工夫を図った。 ②Teamの諸機能を活用し、資料共有や会議時間短縮回数削減を図った。これにより連携も高まった。施設改善で選択教室整備を行った。	①最重要となる当事者意識の育成が図られ、災害に遭遇した時に適切に行動できるよう様々な経験の場を用意して訓練や研修の工夫を図った。	①災害に備え、職員・生徒・地域が協力して行動できる体制を整えるとあるが、身体的不自由な方の避難場所、災害時の生徒の役割をしっかりと検討してほしい。	②治安の悪化が懸念される。学校が取れる対策はないかもしないが、注意喚起はお願いしたい。	①防災に向けた取組では備品確認やマニュアル改善が進んだ。防災教育では通常経路の危険箇所を研修を通じて認識させた。	①近隣住民との協力で、避難場所の見直しや避難行動者への対応について指摘があった。これらを踏まえたマニュアルの見直しが必要となる。